

公明党

度から全中学校区で小中一貫教育をスタートさせる。教育委員会としてはソフト面、ハード面両方の整備を

行う必要がある。現在、空調において小学校の普通教室にはエアコンが整備されていない。熱中症対策も含めた空調整備は学力向上の観点からも重要であり、今

後相互乗り入れで授業や行事を実施する上でもエアコン整備は必要である。また、モデル実施を行っているICT教育について、同じ中学校区の小学校がそれぞれ

違った環境で事業を行うことは、小中一貫教育の大きな特色である九年間を通じた系統性に配慮した指導計画や小中学校合同行事等への影響が懸念される。残り

二年余りの間で、小中一貫教育に適した学校教育施設の在り方を考え、整備を進めなければならないと考えらるかどうか。教育次長 九年間を通じた

小中一貫教育の教育課程を各中学校区で実施できるよう、設備面においてもスタンダードの考え方を早急に検討し、構築する。

大阪維新の会

代表質問 大坪 和弥

個人質問 岸本 光生

中学校給食実施に向けた方向転換のない年次計画と明確な説明を、いじめ未然防止・早期発見・早期対応の更なる推進を！

中学校給食の年次計画について

問 市民の皆様が待ち望んでいる中学校給食。残念なことには大阪府内においては東大阪市のみ本格的な実施に至っていない。現在、教育委員会は、遅くとも平成三十一年度から中学校給食を部分的に実施すると先の第二回定例会において答弁されたが、そもそも市長は平成二十八年第一回定例会における市政運営方針で平成二十九年度スタートすると述べられ、教育委員会においても、平成二十八年三月に出した教育アクションプランで平成二十九年度スタート、平成三十一年度までに全校完成と掲げられている。デリバリー選択制の手法であろうが、完全給食・全員喫食の手法であろう

が、教育委員会が出した教育アクションプランには本市にもっとも適切な形で中学校給食を実施すると書いてあり、教育委員会が本市に最も適した完全給食・全員喫食の手法を選んだということであれば、きつちりと平成二十九年度には遂行するべきである。平成二十七年第四回定例会の代表質問においても、市長は、平成二十九年度からの段階的な導入を目指し、具体的な導入スケジュールを平成二十八年度中に示すことと、予算については平成二十八年度に反映したいと答弁している。しかし、残念ながら、今定例会においては補正予算が計上されていない。これから先の年次計画を含め、この中学校給食実施に向けた明確な説明を問う。

問 教育長 全中学校において完全給食・全員喫食の学校給食を提供できるよう導入計画の検討を進めており、実施に向けた手法等も含め、一定の年次計画を平成二十九年第一回定例会には示したいと考えている。いじめ対策事業について

問 教育委員会は「いじめはどこでも、どの学校でも起こりうる」という認識のもと、「いじめをしない・させない・許さない」を目指し、学校・家庭・地域と連携して、未然防止や早期発見・早期対応に取り組んできた。全国的には、いじめによる不幸な事象が依然として発生する中、いじめから子供たちを守るため、国においていじめ防止対策推進法が施行された。本市



市民が公平に利用できるグラウンドに /

問 本市はラグビーの聖地花園ラグビー場を有し、ラグビーワールドカップ2019花園開催に向けて盛り上がる中、その他のスポーツも盛んな街である。また、大都市近郊の都市型の街であることもあり、人口密度も平成二十六年十月一日現在で、一平方キロメートル当たり八千五百五十四人と全国七百九十一の市の中でも上位三十番目の密度であり、公園や運動施設には限りがある。スポーツが盛んな街で人口密度が高く、運動施設等には限りがあることを考えると、グラウンドを利用したいが、利用できない等の声を沢山耳にするのも当然である。しかし、グラウンドの運用や利用の在り方を見る限り、利用された方々が、公平に利用できるような運用になっていない状況であり、条例や規則等が適正に運用されていると思えない。本市が管理する野球場等の利用の在り方については、限りある施設をより公平に利用していただくように努めるべきであると考え、当局の今後の在り方を伺う。都市整備部長 大会などの優先的な使用については、利用状況を確認、精査の上、一般利用機会の確保と施設の有効利用に資するよう適正な運用を行ってまいります。